



# 猿 股 の 靈 幽

田 辺 三 重 松

私にとって日本語以外は中学の初等程度のそれも50年も昔に教わった英単語のコマギレの持合せしかないのでおそらく洋行連中では最低語学力であったろう。外国語を喋るなど、生意気なことを考えないで何とかこっちの意志を通じさす手段を構じたいものだと考えて見た。目は口ほどに物を言うということだしゼスチュアもあるしまた普通の他人様より便利な絵を描いて見せるという方法もある。日常会話だって付喋みたいに覚えたら一応間に合うだろう。どうせ長い滞在ではないしと大した心配もなく出かけたのであったが、まあ大体この考え方は当ってくれた。

ところで一般日常の使用語つまりコンニチワ、アリガトウ。スママセン。おいくらですか。どうぞ等は今日グトモーニング、サンキュー、エックスキューズミー、ハオマッチ、ブリーズなどの英語を冗談まじりに使っているのだからこれくらいのフランス語を覚えることは大した苦勞はない訳で覚える気にならなかつた。毎日使ったら覚えざるを得ない訳だ。

まづムッシューと言う言葉、これは重宝極らない。ムッシュータナベと言えはミスタータナベであることはご承知の通り、ところがコンニチワというのもムッシューで通る、というよりムッシューあるいはマダムと言はなければ挨拶にならない。朝一寸廊下に顔を出したりすると掃除してるメイドたちがニコニコしてムッシューと呼びかけてくれる。こっちも思はずヤアムッ

シューと言わさってしまう。これは相手が女だからマダムと言ってやらなければ大変失礼なことなんだがついつい日本へ帰るまで間違いのし通しだった。未婚の娘さんならマドモアゼル、だがあちらでは娘かどうかわからぬ時はマダムでいいのだそう。娘と思はれるよりマダムと呼ばれることを喜ぶらしい。買物に行ってメルシー（有難う）と言っても返事もしない、メルシーを忘れてもマダムとかムッシューとか言うとも必ず応答してくれる。

つまりコンニチワはも有難うもムッシュウかマダムで間に合うから便利な言葉だ。私などは行きつけの店では日本語のコンチワだ。コンチワムッシュウとやると向うはニコリしてムッシュウとくる。買うものはいろいろ並んでいるから指させばこと足りるが何か特定の欲しいものは何でも持って行って見せればいい。その時「こんなもの」すなわち「コムサー」という言葉を一つ覚えていれば万事OK。コムサーといつてその物を見せたら時には絵で描いて見せたりゼスチュアでも間に合うこともある。お勘定はというのは「コンビヤン」だ。計算させ書かせるからいくらアチラ語でペラペラいってもヘイチヤラだ。彼等は計算が下手だからこっちでサッサと答を出して待っている方が間違いはない。

一寸覚えにくかったのは「どうぞ」という言葉だ。「シルブプレー」というがどうも私にはシブクレと聞

える、そこでヒブクレと覚えた。ヒブクレを函館弁で発音するとシブクレになる。このくらい覚えるのは毎日やっているといふ自然になる。弱ったのは数だ、1・2・3は英語でワン、トゥ、スリーで小学生だってわかる準日本語だが、それがアン・ドウ・トロアード、まあ少しにごったワントウスリーだと思ってここまでいいとしても4のフオアアがカートル、5のファイブがサンクとなると私には一寸続かない、それにサンクが少しセンクに近い発音に聞えるのでこれを続けてカトリセンコ（蚊取線香）と覚えた。カトリセンコをチョットアチラ式の発音に直せばカートル・サンク、となる。カトリセンコの次はスイスだと覚え込んだ。ところがこんなことを覚えるくらいなら指を出して数を示すか書いて見せれば事足る訳なのでそれ以上遂に覚える気にならなかつた。


アルプスの山を見に出かけた時のことだ。スイスは観光施設は行き届いていて相当高い山までも電車で行ける、それに英単語でも大体間に合ってくる。マッターホルンの見える方面へ廻ったが最後の街は山映にできているがそこでも1,600m以上の高地でここから登山電車で3,200mくらいの山頂へ引上げてくれるわけだが街はツアルマツトというところである。Zが頭文字になってるが一寸聞くとサルマツトと聞えるので早速サルマツトと覚えた、そのサをツアと考えてマタに一寸緩をつければツアルマツトになる。ところがこのホテルはジュレイという名だがこれもJがハッキリしないでユレイと聞える。それでサルマツタのユレイ猿又の幽霊に泊ったということにした、さてその展望地点はゴルネルグラッドというところだがこれもゴロツとネレバグラッドとなると難なく克伏した。つまりサルマツタのユレイに泊ってゴロネルグラッドまで行ったという風になる。おかげでいままで仲々忘れないでいられる。

バリーのゴーストの標識は進め、止れの止レがアタンデーと書いてある、待てという意味だがこれが一寸アトで（後で）に聞える家内が一人ホテルにいた

時メイドが掃除に来たので大いに困りアトデねと言ったらウイ（イエス）ウイと言つて帰えって行ったそうで大変でした。

人間旅をするに食事と排せつ、車と宿、さえあれば万事運行するわけだからいつも別な国へ行った時は先づこの4つに注意したがどこの国へ行ってもタクシーは英字式にタクシーと書いてあるしレストランもレストランと書いてある。フランスでは宿をオテルと言うが書いてあるのは英語と同じホテルだ。ただHを発音しないだけで。便所も、男女それぞれの服装が出ていたりして日本のデパートで便所を探すより余ほど分り易い。只二三の国では婦人の方にDAMEとある、貴婦人という意なんだそうだが私はコレをダメと読んでコレは男はダメということにしたので絶対間違うことはなかつた。ただスペインの大使館で折から館員は不在、小使さん夫婦がいるだけだった折も折家内がいささか催すというのでトイレットと言つたが通じない。ダムも、W.Cもレストルームも不通、スペインの字引はなし困ったあげく最後のゼスチュア腰をかかめてジャーとやって見せたら破顔一笑、アアと納得完通でヤレヤレ。ではいづれまた。





## 手芸教室

を大いに ご利用下さい

- 毎週火曜日  
午後1時～4時30分  
// 6時～9時
- 毎週水曜日  
午後1時～5時

糸・針・ボタン・裏地の卸・小売

# 小宮山屋

さっぽろ狸小路4丁目4286 (ご用にハロー)

## 展示美術



## 株式会社 六書堂

北1西2 TEL (22)2041 (22)7870 (25)6641